

みくびびだより

平成9年6月20日
御首神社社務所



御挨拶

謹啓 御首の杜の御神域にも夏の訪れが肌に感じられる季節となりましたが、皆様方には愈々御清栄の御事とお慶び申し上げます。

今年の例大祭は昨年と異なり春の訪れが早く、満開となる桜も散り急ぎ、合わせて小雨模様の日となりましたが、足元の悪いにも拘らず多くのご参拝を賜り、賑々しく祭りが斎行出来ました事厚く御礼申し上げます。

去る二月、日本海沿岸に於ける原油流出事故で被害に遭われた方々には謹んでお見舞い申し上げます。

今回の事件で我国は被害者では有りますが、二年前の阪神大震災に続き、政府の危機管理能力の欠如が問われ又、日本海沿岸の自然環境の悪化が危惧されております。

日を追う毎に悪化する環境問題の先送りには人類破滅への道と思わねばなりません。普段から意識して環境問題を考え、神代より受け継がれて来たこの美しい自然を、次代に渡して行くのが急務と言えましょう。

さて、四月二日、愛媛県護国神社玉串料訴訟で最高裁で違憲の判決が出されました。甚だ遺憾であります。

判決の内容には紙面の関係上立ち入りませんが、現在我々が豊かな生活を甘受出来るのは、国家存亡の戦争で自分の命を捧げてまで祖国の為に散って行った御英霊の尊い犠牲の上にあることを忘れてはいけません。そして御英霊が何よりも願われた「平和」を、維持して行くことを誓うのは、後に残された国民の義務であり、責任であると思えます。

然らば国は、国の為に戦没した御英霊に対して如何なる責務を果たし、感謝の念を表してきたのでしょうか。国が英霊顕彰を忘れたままで良い訳が有りません。

最後に皆様の御健康と御多幸を祈念し御挨拶とさせていただきます。

『続く』

天と地が未だ分かれていない混沌としている時代に「天御中主神」あめのみなかつぬのかみ「高御産巢日神」たかみむすひのかみ「神産巢日神」かみむすひのかみによつて、大宇宙が創造され、次に葦の芽のように萌え上がる「宇麻志阿斯訶備比古遲神」うましあしかひひこぢのかみ天と地を保ち給う「天之常立神」あめのとこたちのかみ等によつてようやく地球らしき物体が創られた。そして天地の生成が出来たところに、七柱の神々が次々と生まれられその最後が伊邪那岐・伊邪那美、男女の神である。この二柱の神様が国土を始め、山川・草木、その他悉くを生み成されたと古事記は伝えております。

地球が誕生してから約四十五億年と云われて、今日迄天地自然の大法則に従つて、寸分の狂いも無く巡り合いを続け諸生物が生息してまゐりました。その間には火山の爆発、洪水、天変地異があり、多くが生まれ変わり、また退化し消滅もしていったでしょう。人類も然りです。



絶えず生まれ替り死に替りを繰り返しており、特に人類は「天の眞人」といわれ自然に増え続けるように仕組まれているのは、大自然の神々の尊い恩恵以外の何ものでもないであります。

日本民族は元来農耕を主とした民族であり、仲間意識が非常に強く地域共同体の繁栄の守護を氏神さまに祈願し、そして八百萬の神々を祀り大神様のご守護の下に二千年余に亘り連綿と続いて来ました。其の基は云うまでもなく宇宙大自然の神々のお守りがあればこそであり今後も永遠に続いてくれることを願わずにはおれません。

さて、そこで人類を始め地球上に生息する総ての生物には限られた「命」があります。一つの生命が永遠に生き続けることは不可能であり、その為に次の世代に替る生命を、生きている間に宿すことの出来る仕組みを神様から授かつております。

春になると生物は息吹きを開始し、大地にしっかりと根を張り、立派な木や草が成長します。そして花が咲き、秋にはたわわな実が稔ります。其の实の中には既に次の世代に生きるであろう種子が宿されて大地に蒔かれる時期を待つのです。

総ての生物がそうであるように、人類も又同じ営みを持つております。その命は一時たりとも絶えることなく受け継がれ、個々の生命は終わつても人類全体の命は脈々と続いて行く訳であります。

神道の考えはまさに「続く」と云うことを大前提としており、親から子へ、子から孫へ、更に曾孫へと生活や風習の受け継ぎが行なわれて、そこに家門の繁栄が写し出され永年続いた家柄が名誉となり後世に語り継がれてまいります。

信仰の実践でも「続く」ことが第一条件ではないでしょうか、「叶わぬ時の神頼み」ということをよく耳にいたします。世俗の人間の心情をよく捉えた言葉でありますが神さまの立場からこのようなことを想像した時に、果してその願いを聞き入れて頂けるかどうか疑問に思えてなりません。祈願の内容が自己のことでも他人のことであっても一時期のみの信仰で結果を期待する考えそのものが身勝手なのではないでしょうか、信仰というものは決して短期間に結論や結果が出るも

のではありません。十年二十年と続いて徐々に結果が現われて来るものなのです。稀には何十年と経つても結果が現われないこともあるかも知れませんが、しかし信仰の実績の積み重ねは決して無駄にはなりません。真の「まごころ」を尽くせば必ずその子供や孫に好結果をもたらすことでしよう。

日本の国の始まりは速く、神代の世界に遡り、天つ神（瓊瓊杵尊）が国土にご降臨になられました。その時、天照大神が瓊瓊杵尊に御下しになった神勅があります。「豊葦原の千五百秋の瑞穂の国は、是れ吾が子孫の王たるべき地なり、宜しく爾皇孫就きて治らせ。行矣。宝祚の隆えまさむこと、当に天地と窮無かるべしと。」（日本書記）

これを要約いたしますと「豊かに葦が多く生えていて、沢山の立派な稲穂の生産出来る国はそなた（瓊瓊杵尊）の治める国としてこれより総てをまかせよう。さあわたしの命令どおり葦原の国へ天降りしなさい。そうすれば、天地共に永遠に栄へることでありましよう。」という意味であります。

我が国は神代より尊い神々の祝福を受けて成立した国柄であり、このように「続く」という精神は我々の心の中に潜在的に持ち合わせている筈であります。戦後五十余年経た現在はどうでしょう。地域の共同意識は残念乍ら強いとは言えません。個人の自由を楯に気づい気ままに利那的な暮らしをしている人を多く見受けまます。親と子の絆が薄くなり、学校では「いじめ」が横行し、自殺者まで出るようになりまました。無理が通り道理が引込むような時代となり誠に悲しむべき事態であり、一刻も早く正常な社会に建て直さねばなりません。

人間個々の生命はせいぜい百年余りです。限られた年月に自分たちの子供や孫に迷いの無い生き方の出来るよう導いてやるのが人としての正しい道であります。

私たちは毎日の生活を通して絶えず次世代につながることを考慮に入れ子孫の繁栄に貢献出来るよう心がけたいものです。

榎宜 上松 雅之

ちよつと一言

こんにちは、社務所より一言御案内申し上げます。

みなさんは、参拝の折、おみくじをひいたり、絵馬に願い事を書いて奉納したり、使われた帽子を絵馬堂に祈願奉納されたります。

絵馬掛けに奉納された絵馬が風に吹かれて、カラカラと音がする風情は、とても爽やかで心が洗われます。

この絵馬は、本来木の板の額に馬の絵を書いたものです。

古くは神様に祈願する礼物として、神馬（しんめ）神様の乗御に供する馬）を奉ったことに由来します。これが次第に、本馬の馬を奉納することが出来なくなつたので、略儀として神馬の形を画いて奉納することになつたものです。

後には、馬を画くだけでなく、神事の伝承などに因む絵や、色々の絵、そして自分達の願い事を託した絵を画いて、神様にご覧に入れ、その人の技芸を後世に残すため奉納されるものも出てきました。そういう意味で、絵馬には人々の祈願が、絵という形になって納められているといえます。

御首神社では、皆様が一年間に奉納されました祈願絵馬を、翌年の二月の節分に執り行われます浄火祭で、帽子や幣串とともに、忌火をもってお焚き上げいたしております。浄火祭には、皆様も是非御参列になられ、荘厳な浄火燃え盛る境内で、益々輝かれます大神様の御神徳をお受けください。

榎宜 高橋 滋



祭事報告

- ▼年越大祓 十二月 三十日 午後三時
- ▼元旦祭 一月 一日 午前零時
- ▼左義長 一月 十五日 午前十時

正月中に、各御家庭で飾られた注連縄や松飾り、前年に神棚でお祀りされた御神札や肌身に付けられた御守り等を忌み火にて、お焚き上げする左義長神事を、午前十時多数の参列者が見守る中、執り行われました。

参拝者が次々と、お焚き上げされる返納物を手に、境内に設けてある火炉に向い、今年一年の無病息災等の御祈願に、手をあわせる方々で終日賑い、夕方暗くなるまで、火が赤赤と燃え上がっております。

- ▼浄火祭 二月 三日 午後三時

節分の日に斎行致しました浄火祭は、宮司以下祭員五名、氏子区域内の今年厄年に当たる四名の厄男及氏子総代のご奉仕により、参拝者の見守る中、盛大に執り行なわれました。この浄火祭では、御祈禱を受けられた方が、御神前にて奉つて頂きました「金幣串」、返納されました「紅白串」、祈願奉納されました「帽子」「絵馬」等を、厄男が皆様の願いが叶うよう祈念し、忌み火にてお焚き上げ致しました。

近年この時期は、荒天の日が続いておりますが、今年には晴天に恵まれ大勢の参拝者をお迎えすることが出来ました。

- ▼祈年祭 二月 二十一日 午後三時
- ▼御鍛神社例祭 三月 十七日 午後三時
- ▼例大祭 四月 二日 午後三時
- ▼南宮神社例祭 五月 四日 午後三時
- ▼お田植え祭 六月 九日 午後三時
- ▼農休み祭 六月 十五日 午後三時

- ▼焼納感謝祈禱 午前九時〜午後五時

当神社では、慣れ親しんだ物や大切な物等の処分を望まれる方の為に、昨年十一月より特別に感謝しお焚き上げする「焼納感謝祈禱」を執り行なっております。

神棚を始め結納飾、人形、置物、カバン、帽子等多数お持ち頂き、御祈禱の上お焚き上げ致しました所、大変喜んで頂いております。焼納感謝祈禱をお受けになる方は、受付までお申下下さい。

尚、正月や大祭又悪天候の時、惑いば持ち運びに困難な大きな物は御遠慮下さい。



厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳
女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より大厄とは

災厄を蒙り易い時期でありまして一生涯での節目と云われており忌み慎むべき年であります。一面から見ると生理上、社会上の節目の年として人生の転換期に相当するのであります。特に男子の四十二才、女子の三十三才の大厄は家庭的にも最も大切な時期であり、社会的にも重要な地位に置かれる時であります。故に日常生活に於いて一段と慎重深く、災厄を除く配慮を怠つてはならないのです。その為には専ら祓いを受け神威を仰いで、清らかな毎日を過ごすことが大切です。大厄の年の前後三年間は当社にお参りされ大神様のご神徳を益々戴かれますようお勧めいたします。

平成9年厄年に当る生れ年				
		前 厄	本 厄	後 厄
男子	42歳	昭和32年	昭和31年	昭和30年
	25歳	昭和49年	昭和48年	昭和47年
女子	33歳	昭和41年	昭和40年	昭和39年
	19歳	昭和55年	昭和54年	昭和53年

権禰宜 谷口 哲也

初宮詣で

日本古来より語り継がれている国生みの神話は、神と人と国土とが血の通ったものだという、神・人・大地同床の近親感をもって、私たちに大自然の息吹きとしての赤ちゃんの誕生を祝福してくれていて、神道では赤ちゃんを「神の子」として迎えます。

神様より授かった大切な赤ちゃんが初めてご神前に参出て、無事出産のお礼と健康を祈



願するのが初宮詣りであります。

初宮の期限は鎌倉時代で、誕生記の中に、「百日の内は白小袖、百一日目色直しとて、産婦兎並に仕女も色小袖を著す。色直しありて三十七日の後吉日次第宮参あるべし」とあり、随分長い間忌み慎んでいたものですが、江戸時代、徳川家綱の頃より男子三十二日、女子三十三日目に産土神社に詣でたことが記録にあります。

地方によって多少の差異はありますが、現在では、男児は三十一日、女児は三十二日目に神社へ参拝される方が多いようです。

又、戌の多産と安産とにあやかり、縁起ものとして張子の犬を肩から掛けての宮参りの姿も多く見受けられます。

昔は新生児誕生の初夜、三夜、五夜、七夜など奇数の日を「産養い」（うぶやしな）として祝い、そのうち「お七夜」が現在まで受け継がれ、お祝いと共にこの日に命名する習わしになっていきます。そして約一カ月後に神社に初詣でをするのですが、これは元気に育ったお礼と同時に出産の忌み明けの儀式で、「ウブアケ」（産屋明け）と呼ぶところもあります。

尚、当社では初宮参りの御祈禱を毎日午前九時より午後五時頃迄、執り行っておりますので、皆様方の大切な赤ちゃんが、健康長寿・幸福円満な家庭生活を営む為にも、御首大神様の御神徳を戴かれますよう、心より御祈念申し上げます。

権禰宜 高田 豊彦

崇敬会十周年
記念事業のぐゝ案内

氏子を始め全国各地の崇敬者の赤誠の真心をお受けいたし、昭和六十二年十月、当神社の本殿等の建替えが立派に完成いたしました。誠に有難うございます。胸中筆舌に尽し難い思いでございます。

この赤誠のお心に微力乍らお答え致したいと、宮司を始め職員一同協議を重ねて見首神社崇敬会が発足致し、多くの方々のご賛同を得まして、温かいご支援の下に徐々に発展させて頂く中に、今年で十年目を迎えようとしております。

会員の皆様には常日頃絶大なるご支援やご協力を賜わり、有難く厚く御礼申し上げます。この佳き節目に辺り、来る十一月三日の崇敬会大祭は開始時間を早め、舞楽の奉納など例年より一層厳粛な祭典又記念講演を催したいと存じますので、多数ご参拝頂きますようお願い申し上げます。

尚、一部の会員さんより崇敬会のあり方について①大祭当日ボランティアで受付等の手伝いを募集してはどうか。②会員の名簿を作成してはどうか。③講演の後の会食はどうか等々のご意見がありました。

より多くの方々のご意見を拝聴いたし、前向きに検討させて頂きますので宜しくお願いたします。

禰宜 上松 雅之

祭事案内

▼西宮神社例祭 七月十七日 午後三時

▼末広稻荷神社祭 八月 三日 午後三時

▼夏越大祓式 八月 三日午後三時半

大祓の起源は、遠く天智天皇と天武天皇の頃と言われており、当時は奈良の平城宮に於いて、六月と十二月晦日に全国の官職等が参集し、半年間の種々の罪穢を祓いやる国家的儀式でありましたが、近年では全国多くの神社でも、氏子崇敬者を対象に執り行われるようになりました。

大祓は、日常生活に於いて知らず知らず受け犯している、る罪や穢を祓い清めて災厄を逃れ幸福を得むとするもので、当御首神社では、皆様方が半年間に身に受けた罪・穢・災・厄を祓い清めて頂くため夏越大祓を厳かに斎行致します。



大祓式に引き続き、茅の輪くぐりに移り、お祓所役を先頭に、宮司以下祭員・総代・一般参列者の順に左右左とくぐり、最後に参道をまっすぐ拝殿前まで進み、二礼二拍手一札にて拝礼して頂き終了します。

皆様方が諸々の罪穢を託された「人形」は、祭員が忌火にてお焚き上げ致しますので、大祓神事に是非御参列して頂きまして、身も心も清々しい気持ちで、除穢招福・健康・長寿の御神徳を載かれまして、暑い夏を無事に過ごして頂きますようお願いいたします。

尚、参道に舗設されました茅の輪の前では午後五時頃までお祓いを執り行っておりまして、順次ご参拝いただきますようお願い致します。

※「人形」(ひとがた)につきましては、拝殿前社務所等に用意いたしておりますので自由にお持ち帰り下さい。各自奉製されました人形でも受付致しますので、社務所まで住所・氏名・年齢等詳細を明記の上、郵送又は、ご持参下さいますようお願い致します。

尚、当日は日曜日という事も御座居まして混雑が予想されますが、平常通り午前九時より午後五時頃まで、病氣平癒・健康祈願・勉学向上・家内安全・事業繁栄等諸祈願の御祈祷も執り行っておりますので、お早めに受付を済ませて頂きますようお願い申し上げます。

- ▼長寿祈願祭 九月十五日 午後三時
- ▼神明神社例祭 十月十七日 午後三時
- ▼崇敬会大祭 十一月三日 午後一時



▼七五三詣で 十一月一日(三十日七五三詣では、古来より(髪置き・袴着・帯解き)と子供の成長に節目を付け、御神前に御報告し、大神様の御守護を戴くお祭です。多数のご参拝心よりお待ちしております。

▼新嘗祭 十一月二十三日 午後三時
権禰宜 高田 豊彦

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一二八三の一
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇